

平成29年度の年間の活動

1. 農園クラブの役割と活動

団地の真ん中に畑という大きな幸せの空間を持つ「池田の森」。農園クラブの役割はこの畑のある景観や緩やかにつながる雰囲気、次の世代までずっとつなげてゆくことだ。エコロジー団地池田の森35世帯の半数ほどで構成される農園クラブが、池田の森というコミュニティの内側の活動だけでなく所属する地元自治会との調整や、更には今まで自治会が行ってきた役割を果たさなければならない案件も出てきた。



1) 周辺道路の安全対策

池田の森の周辺道路の安全対策を、農園クラブ役員が市と直接協議し実施完了した。池田の森周辺の開発が進み、団地と接する道路で小さな接触事故が何件か発生したため団地が所属する地元自治会に相談したところ、通常自治会が市と対応を協議するところを、この件では池田の森が直接市と協議、解決してほしいと求められた。



農園クラブ役員が市担当課と連絡をとり一ヶ月という短期間で、交差点のカラー化と道路上に注意を促す文字を書く対策を完了させた。直接協議をすることで対策の内容や緊急性などを市の担当者と話すことができてよかった。これも農園クラブが、池田の森の団地内道路や植栽管理で市と連絡を取り合うことがあるためにできた対応であり、行政とのコミュニケーションの重要性を再認識した。

2. 農園クラブの共同作業

1) 畑の土留め修繕

池田の森有機農園が整備されてから、本格的な修繕がされてこなかった土留め修繕作業を行った。

大きな畑と田んぼの横の小畑に段差があり、12年前の農園クラブ発足当時に施工された杉板のしがら土留めが朽ち果て、土の流れ出しが激しくなり本格的な修繕を行うことになった。



今回は杉板の代わりに今まで発電風車に使っていた古木柱をホームセンターで購入した丸太杭で止める土留め壁を農園クラブのメンバーの手作業で施工した。朽ちた杭と肥えた畑の様子に12年という年月の流れを全員が改めて感じた。



土を掘って古木柱を横に寝かし、高さをそろえ杭で止める。

杭打ちは若手が担当し、掛矢も軽々と持ち上げ20本以上の杭打ちも短時間で完了。これでまた何年か土留めの修繕は行なわなくてもよさそうだ。



この日の参加者は9名ほどであったが、午前中2時間ほどで作業が完了し、料理上手な今年度の会長(男性)の豚汁を、アトリエの前庭で食べて解散。



3. 他団体との交流

1) 「田んぼと遊ぶ会」のみなさんを迎える

20 年以上にわたり市内の谷戸をベースに自然農法で米作りをしながら食や環境問題に取り組んでいる「田んぼと遊ぶ会」のメンバーを迎えた。会のメンバーは長年の活動の中で植物、生物、生態系などの専門的知識をたくわえ、市の事業である遊水池のあり方などを審議する委員会のメンバーとしても活躍している。



農園クラブも無農薬を基本としているところは田んぼと遊ぶ会と同じであるが、会は米の生産ということと同時に会の名前の通り、田んぼに生息する生き物や田んぼ周りの植物の存在を楽しむ姿勢が強うかがえる。雑草を肥料にしたり、草花を楽しんだりと池田の森の農園でも参考にしたい知恵がたくさんあった。



他にも、畑や田んぼに生える植物の観察会や植物を使った作品作りのワークショップの指導もしてもらえるということで、来年度も再度交流プログラムを企画して、クラブ以外の住人にも参加してもらえ交流事業にしたい。



4. 畑のモグラ対策

以前から検討事項に上がっていた畑のモグラ対策について、クラブメンバーが各々昨年度の専門家のアドバイスを実践してみた。畑にモグラ塚の土山がたくさん見られる場合はモグラと見て良さそうだ。モグラはミミズなどを食べるためにトンネルを掘り、作物の根が傷んだり水分を揚げられなくなって植物が枯れる。モグラはあまり地中深くにトンネルを掘らないので、畑の周囲に深さ 30~40cm の溝を掘り、板やトタンなどで地中柵をすると進入できないので効果があると言われている。他にも風ぐるまなどの音の対策や竹酢をトンネルに散布するなど、匂いによる対策も効果があるということであったが、実践したメンバーの報告によるといずれの対策も効き目がなかったという。

そこでクラブで選任されたメンバーが、モグラ対策専門業者の販売する自然素材から作られた害のないモグラ忌避剤の効き目や影響などを調査し、安全と効果が期待できそうなら実際に畑に使用して効果を確認してみることになった。

農薬を使わない有機農園なので、食の安全には最大の注意を払いたい。

5. その他恒例の活動

1) タケノコ掘り

毎年楽しみにしている人が多い恒例のタケノコ掘りを開催。今年度は春先に気温の低い日が多く、雨も少なかったのでタケノコの生育が遅く、数も少なかった。何度も竹林を見に出かけ予定を何回か変更した。それでも当日は天気も良くまずまずの収穫を楽しんだ。



2) フリマ、終活市

池田の森で開催される小さなイベント池田の森の市。毎回住人のママさんグループが出店し、小物、子供服などを親子で販売しているが、今回はシニアグループが終活市と銘打って出店した。タンスに眠っているもの、未使用の小物、器など程度の良いものが多かった。



3) 収穫祭バーベキュー

池田の森最大の夏の親睦バーベキューが今年も盛大に開催された。今年は 11 回目となり、当初アラカンだったメンバーは古希を迎え、当時の小学生の何人かは家を離れて自立しているという。時の流れを改めて感じる会となった。



6. 新しく始まった体操教室

農園クラブのシニア女性メンバーがコーディネートして、自彊術(じゅきょうじゅつ)教室が週 3 回池田の森アトリエで始まった。自彊術は硬くなった関節をほぐし、体の歪みを直し、血液の循環をよくする健康体操で、団地内外の 60 歳以上の女性 6~7 人が参加している。最高齢は団地内の 86 歳。女性はいくつになってもおしゃべりが楽しい。体操以上におしゃべりで体が軽くなっている様子だ。

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 樹木の維持管理とガイドブックづくり

昨年度に引き続き樹木の管理手法について、今後どのように進めていけばいいのか、樹木医の意見を聞きながら検討している。昨年度は市による団地内の市道上の街路樹の一斉剪定が行われ、右写真のケヤキもかなりきつい切り詰めが行われ、後に樹皮の剥がれが生じて、回復するかどうか心配な状態だ。ケヤキは切り詰めに強い木ではあるが、このような状態になるような無理な剪定は好ましくない。



市の剪定予算が減少しているので剪定回数も減り、樹木に好ましくない剪定が増えているようだ。街路樹や公園樹が良好な状態で保たれるよう、農園クラブとしても樹木に関する知識を増やして行きたい。樹木の剪定時期や管理方法までわかるガイドブック作りができれば市との共同作業も可能かもしれない。豊かな緑を維持するためにも、もう少し時間をかけてガイドブック作りを進めたい。

2. 井戸の活用

池田の森には農園や田んぼに水を供給する深戸があり、地下 30m から水を汲み上げている。水量はたっぷりあるので、災害時に電気の供給さえあれば市の水道が止まっても水は確保できる。水質調査をして防災に備えたい。



調査検討費の使途

- 樹木の維持管理ガイドブック作成準備
- 樹木医等専門家派遣依頼
- 他団体との交流
- 池田の森収穫祭親睦バーベキュー協賛
- 池田の森の市フリマ協賛
- 池田の森各設備維持管理調査費
- 畑の維持管理の調査、研究
- クラブの活動費、旅費交通費

近い将来取り組まなければならない課題

- 緑道（私道）そのものの維持管理に加え、緑道内の設備（井戸、発電風車、街路灯）の維持管理。将来的に大規模修理や設備更新が必要になった時の修理費をどのようにするのか、農園クラブだけでなく団地全体の問題として捉え考えなければならない。
- 農園クラブメンバーとクラブメンバーでない住人とのコミュニケーション。団地全体で解決しなければならない問題が出てきた場合に備えて、将来問題になりそうな課題そのものを共有しておいた方が良いのではないか。
- 池田の森としての一体感、風景や雰囲気維持と安心安全をどう守るか。
- 住人の高齢化対策。